

◆◆特集◆◆

★道路の老朽化対策に向けた大型車両の通行の適正化への取組について★
(道路局 道路交通管理課 車両通行対策室)

国土交通省道路局では、平成26年5月に「道路の老朽化対策に向けた大型車両の通行の適正化方針」を策定し、国民の財産である道路を極めて大きく傷める重量超過の悪質違反者には厳罰化を、適正に道路を利用して物流を支える方にはより使いやすくといった、メリハリの効いた取り組みを進めていくこととしたところである。

本稿は、この適正化方針に基づいて、今日まで国土交通省において実施してきた大型車両の通行の適正化への取組内容について説明する。

◆◆訴訟事例紹介◆◆

★普通乗用自動車道路の工作物に衝突した事故について、
管理瑕疵が争われた事例★

<平成27年1月13日 横浜地裁判決>
(国土交通省 道路局 道路交通管理課)

【事案の概要】

本件は、普通乗用自動車を運転して国道を走行し、バリケード等の工作物に衝突した原告が、当該工作物が走行車線上にはみ出すなど道路の設置又は管理に瑕疵があったため自らが損壊して損害を被ったとして、道路管理者に対し、国家賠償法2条1項に基づく損害賠償請求をした事案。

【判決要旨（請求棄却）】

本件事故は原告が本件事故現場を進行する際、法定速度を超過して走行し、漫然とした運転が原因となって発生したものであることは払拭出来ず、また、当該工作物が走行車線上にはみ出していたという主張は、これを認めるに足りる的確な証拠がない。

◆◆TOPICS◆◆

★地域力を活かした富士山の包括的な道路景観管理に向けた社会実験★
(国土交通省中部地方整備局道路部地域道路課／

国土交通省中部地方整備局静岡国道事務所)

世界文化遺産に登録された富士山の麓、日本風景街道にも登録されている静岡県富士宮市朝霧高原の国道139号を舞台に「富士山朝霧高原景観管理協議会」が主体となって行った「地域力を活かした富士山の包括的な道路景観管理に向けた社会実験」について紹介する。

◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

★「名古屋南部大気汚染公害訴訟・和解条項履行に係る意見交換最終合意書」の締結について★

(国土交通省 中部地方整備局 道路部)

名古屋南部訴訟は、当初の提訴から12年を経て、平成13年8月に原告団との間で和解が成立し、以降、和解条項等の履行に係る意見交換を行いながら、国として名古屋南部地域の沿道環境改善に向けた施策を実施してきたところですが、平成27年3月に合意書を締結しましたので報告します。

.....

★熊本県における災害情報共有化の取組みについて★

(熊本県 土木部 道路都市局 道路保全課)

熊本県では、九州北部豪雨(平成24年)の災害等発生直後に行政の情報が錯綜し、応急作業の優先順位が混乱するなど初動体制の課題があったことから、建設業協会と協力して、災害時に速く正確な情報を収集し、迅速かつ的確な初動対応を支援する「災害情報共有システム」を開発して運用を開始した。本稿では、これらの取組みについて報告する。

.....

★熊本市における道路の通称名を使った歩行者誘導の取組みについて★

(熊本市 都市建設局 道路整備課)

熊本市では、平成22年度に、翌年の九州新幹線全線開業ならびに翌々年の政令指定都市移行を前に、観光やビジネス等により増加すると見込まれる訪問客の中心市街地での回遊性を高めるため、道路の通称名を用いたわかりやすい道路案内板の整備を実施しました。本稿では、これらの経緯及び取り組み状況についてご紹介します。

◇◆お知らせ◆◇

★『いい出会い いい道からの 贈り物』★ ～平成27年度「道路ふれあい月間」推進標語 入選作品決定のお知らせ～ (国土交通省 道路局 道路交通管理課)

国土交通省では、「道路ふれあい月間」の行事の一環として、道路の意義・重要性について改めて考えて頂くことを目的に、推進標語を広く一般から募集しました。審査懇談会における厳正な審査の結果、応募総数5,308作品の中から、[小学生の部][中学生の部][一般の部]の部門毎に最優秀賞1作品ずつと優秀賞2作品ずつの計9作品が選定されました。

◆◆編集後記◆◆

トム・ソーヤの冒険のとあるエピソード。いたずらが大好きな少年トムは、友達の間でハックといたずらばかり。ある日、いたずらの罰として塀のペンキ塗りをさせられることになり、そんなトムをからかいに友だちが数人かやってきた。しかし、とても楽しくペンキを塗るトムの姿が映ると、自分たちもペンキ塗りをしたくなってしまう。「ペンキを塗らせてよ」とせがむ友だちに「こんな楽しいことはやらせてあげないよ」とトムが断ると、友だちはどうしてもペンキ塗りをしたくなる。宝物をトムに渡して、やっとのことでペンキ塗りをさせてもらえることに。トムは、宝物をせしめたうえに、いやいややらされていた塀のペンキ塗りから解放されることとなる。

ごきげんなペンキ塗りというタイトルだったと記憶していますが、このエピソードでは、友人がペンキを塗っている姿を寝そべりながら口笛を吹きながらみているトムの挿絵がとても印象に残っていて、また、トムの閃きってすごいなあ〜と、今でも感心します。しかもその友だちは、ペンキ塗りを心の底から楽しんでいるというオマケつき。

先日、やっとの思いで書き上げたものを見てもらったところ、「いつも楽しそうに書いているね。」と言葉をかけてもらうという出来事がありました。話の方向性は違いますが、この言葉で、なぜかトム・ソーヤのペンキ塗りのエピソードを思い出しました。

人は他人を羨ましがるもので、人が楽しそうにしていることは、他人から見れば魅力的なものとして映ることがあります。また、他人の行動は、良いところばかりが強調されて見えることが多いので、その裏にある努力や困難は見えづらいものです。自身の話になりますが、何かに取り組んでいるとき、見えない壁に阻まれることが幾度もあり、その度に右往左往したりジタバタしたりしますが、他人の目からは、その取り組み姿勢が楽しそうに映ることもあると知り、とても誇らしく光栄に思いました。時には気が進まないこともありますが、挑む姿勢は、誰かが見ていてくれるものだなとも。トムみたいにもっと楽しそうに取り組めば、ひょっとすると、誰かがやってくれるのかな。(U)